

第7号 稲作管理特報

令和4年7月8日
朝日町
黒東地域農業技術者協議会

コシヒカリの生育は、草丈がやや長め、㎡当たり茎数がほぼ平年並み、葉色が淡めに推移しています。幼穂形成期は、5月10日頃の田植えで、**7月8日頃**と平年より4日ほど早まると見込まれます。

穂肥は、草丈・葉色・幼穂長などの生育状況を確認して的確に施用しましょう。

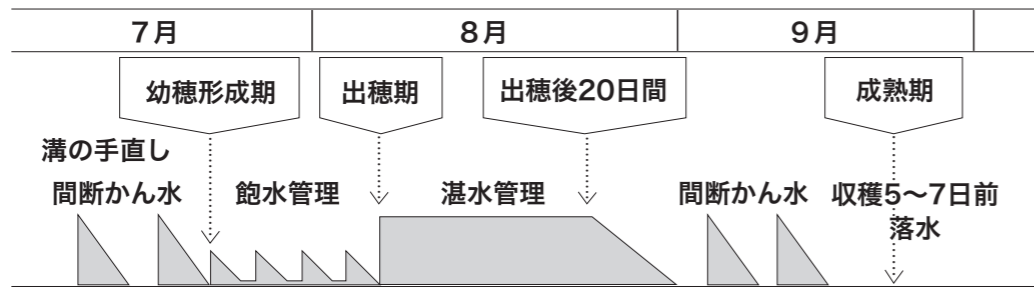
【コシヒカリの生育状況（みな穂管内）】

	田植日	6月28日				7月5日				幼穂形成期		
		草丈 cm	茎数 本/株 本/㎡		葉齢	葉色	草丈 cm	茎数 本/株 本/㎡			葉齢	葉色
R4	5/10	54.5	26.4	537	10.8	4.0	67.0	23.3	475	11.7	3.9	7/8
平年	5/12	51.0	24.8	504	10.5	4.2	60.8	24.3	494	11.4	4.1	7/12

1. これからの水管理 … 暑い時こそ水管理が重要！

- ①出穂期まで**：飽水管理を徹底し、稲の活力維持に努めましょう。
※**飽水管理**：常に足跡や溝に水が残るくらいの状態を保ち、根の活力と葉色の急激な低下を防止しましょう。ただし、4日以上、水が滞っていたら落水する。
- ②出穂後**：20日間は、田面が出ない程度の**湛水管理**を行いましょう。
・水をためっぱなしにせず、定期的な水の入替えを行う。
ただし、かけ流しは絶対に行わない。
(例)5日に一回程度入替え…地域の用水事情に応じて実施する。
- ③湛水管理終了後～刈取り7日前まで**：**間断かん水**で、稲の活力維持に努めましょう。

○今後の水管理



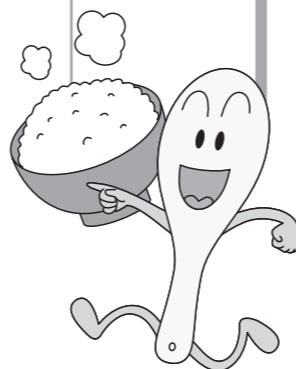
2. 斑点米カメムシ類対策 … 草刈りと適期の防除で斑点米の発生を防止！

- 一斉草刈り後は、雑草の穂が出ないように管理しましょう。
- 草刈り時の農作業事故や熱中症に注意しましょう。
- 適期の防除で効果を高めましょう。

【コシヒカリの一斉防除予定については、後日、防除特報を発行します】

※無人ヘリコプターでの防除をご利用の方には、後日折込みチラシなどで別途ご案内します。

高温でも夏バテしないよう
水管理をこまめに行いましょう！

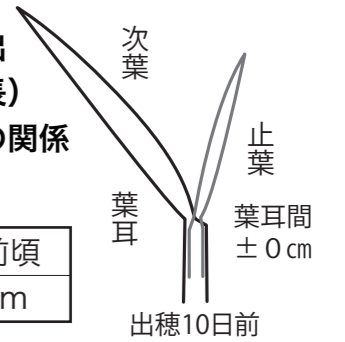


3. コシヒカリの穂肥 … 1回目は慎重に！ 2回目は確実に！

【幼穂形成期の生育量の目安】

幼穂2ミリ確認時（7月8日頃）		
草丈	茎数	葉色
72cm	470本/㎡	3.8

▷ **止葉の抽出（葉耳間長）と出穂日の関係**



▷ 幼穂長との関係

出穂前日数	22日前頃	20日前頃	15日前頃	10日前頃	7日前頃
幼穂長	2mm	5mm	1.5cm	10cm	13cm

【基肥一発肥料の場合】

穂揃期の葉色が淡いと、登熟期が高温になった場合、収量や品質が低下する恐れがあります。

○出穂7日前（7月23日頃）に、葉色が4.0（洪積土3.8）未満の場合は、追肥3号で5～7kg/10a施用しましょう。

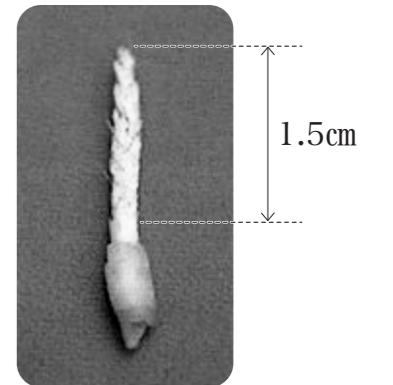
【分施肥系（基肥206号）の場合】

- 1回目の穂肥は、必ずほ場ごとに**幼穂長・草丈・葉色**を確認して施用しましょう。
- 2回目の穂肥は、粒の肥大を良くし、米の品質低下を防ぐ効果があるため、確実に施用しましょう。

<穂肥施用時の生育量の目安>

（幼穂形成期：7月8日頃 出穂期：7月30日頃）

穂肥		第1回目	第2回目
草丈		82cm	—
施用時	幼穂長	1.5cm	13cm程度
	葉色	3.6	4.0
施肥時期		7月15日～16日頃	1回目の7日後
肥料名		追肥3号	
施肥量		10kg / 10a	12kg / 10a



1回目穂肥施用時の幼穂

※ 1回目穂肥時の葉色が「**3.8～4.0**」のほ場では、**施用時期を2～3日遅くするか、施肥量を7割程度に減らす。**

※ 葉色が「**4.0**」より濃いほ場では、**1回目は施用しない。**

地力増進作物を組み入れ、肥料コストの軽減を図りましょう。

(例1) 水稻収穫後 → ヘアリーベッチ(10-3月) → 水稻(4-9月) 基肥減肥 最大10割

(例2) 大麦跡 → クロタラリア(6-9月) → 水稻(4-9月) 基肥減肥 最大5割

適切に実施されれば、地力増進作物の作付支援(5,000円以内/10a)が有ります。

詳しくは、営農指導員に問い合わせてください。

★JAみな穂営農情報メールを配信しています。

主な情報
提供内容

- ・ 水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・ 気象情報と災害防止の対策

右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

